

# 日本薬学会 第37回創薬セミナー

会期：2022年7月7日(木)～8日(金)

オンライン開催

アンケート集計結果（一部抜粋）

# 目次

1. 今回のプログラムに関するご意見
2. セミナー全般に関するご意見
3. 自由討論会に参加した方からのご意見
4. 自由討論会 グループ分けについて
5. 自由討論会 討論について
6. 自由討論会 今後のテーマについて

以上

# 1. 今回のプログラムに関するご意見

## 【ご意見】

- ・面白い内容ばかりで、面白く、かつ、大変勉強になりました。
- ・アカデミアから企業まで、様々な分野の講演を知ることができて面白かった。
- ・幅広いバックグラウンドの先生方のご講演を聴くことができ、また、議論することができ、とても貴重な機会でした。
- ・何か特別な分野に偏っているプログラムではなく、「創薬」を中心とした多岐に渡る分野の最先端に触れることができ、大変有意義な二日間でした。
- ・とても幅広い分野の講演を聴講できて有意義な2日間であった。創薬に関する最新の技術や各講演者の先生の低分子医薬品における意見を今後の創薬に活かしていきたい。
- ・アカデミアと企業、双方の研究の仕方や考え方などを聞くことができ、有意義だった。今後の創薬分野の展望などへの見識も少しは身についたと感じた。
- ・味深い演題が複数あり、非常に有意義なセミナーだったと感じました。また、創薬の最前線で奮闘する先生方の講演を聴いて、自分自身の研究活動に対する意欲もより高めることができました。
- ・どの講師の方々も熱意ある講演をして頂き、非常に面白かったです。
- ・何れの発表も興味深く、創薬における幅広い分野の先生のお話を拝聴することが出来、とても良い機会となった。
- ・多岐にわたるテーマおよび開発時期も様々（少し古めの話題から最先端の話題まで）で興味ある演題が多数あった。
- ・内容が多岐にわたっており、普段の業務の中では出会わない内容もあったため、非常に興味をもって拝聴いたしました。
- ・普段の業務では知ることができない企業、アカデミアの最新の創薬情報に触れることができ非常に有意義でした。
- ・非常に興味のあるプログラムを調整していただき、誠にありがとうございました。研究内容について刺激を受けましたし、2日間、有意義な時間を過ごすことができました。
- ・Zoom 開催でも、非常に勉強になるセミナーだった。アカデミア、企業からそれぞれ講師の先生を招いていただいたり、創薬と一言で言っても、化学、薬理、計算化学といった様々な分野の先生のお話を聞けたりしたのが良かった。また、講演時間もちょうど良く、基礎的な部分から説明していただくのに十分な講演時間であったため、理解も深まったのが良かった。

## 2. セミナー全般に関するご意見

### 【ご意見】

- ・初めて参加しましたが有意義でした。若い方が多いようにも思いましたが、マネジメント層向けの討論会のようなものもあると大変勉強になるのでまた参加したいなと思いました。
- ・来年も参加させて頂きたいと思います。
- ・興味深いご講演が多く大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とりまとめをありがとうございました。とても良い企画なのに、あまり参加できず、とても残念に思います。
- ・様々な分野で活躍されている先生の講演はとても私自身の知識や考え方の幅を広げる機会となった。今後の低分子医薬品はとても高い壁を乗り越えなければ開発が難しくなってくると思われるが、可能性は年々広がっているということを念頭に置き、最新の創薬について常にリサーチしていこうと思う。
- ・アカデミア、製薬企業、両方において、創薬現場でご活躍の先生方の、日々のお話やお考えをお聞きでき、とても貴重な機会でした。
- ・委員長、委員、事務局のみなさまのご尽力に感謝しています。
- ・オンラインでは特に聞きたい講演を聞ける。宿泊付きでは、創薬セミナーの大宜味を味わえる。
- ・発表者の方とお話する機会を設けていただき、大変勉強になりました。また、様々な分野の研究者が参加されており、他分野のお話も聞くことができ、勉強になりました。
- ・オンライン開催というのは、対面での醍醐味を失う一方で誰でも気軽に参加できるメリットもあります。また、オンデマンドのような学習性の高い形式も取りやすいので、コロナによって生まれたこの形式をハイブリッド型でも構わないので継続できると嬉しく思います。



# 3. 自由討論会に参加した方からのご意見

## 【ご意見】

- ・とても楽しく、2時間があっという間に過ぎたような感じがいたしました。このような交流は他ではなかなかできないので、大変実りのあるものとなりました。
- ・普段、お目にかかれない、他社の方や学生と、ざっくばらんに自由な議論を重ねられたので、非常に貴重な体験でした。今後も、そのような機会を設けてほしいと思います。
- ・自由討論会は非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。グループ内で濃密なディスカッションを交わし、アカデミア・製薬企業のニーズのすり合わせや互いの背景の違いについて理解を深めることができました。はじめは2時間は長すぎるのではないかと気後れしていましたが、終わってみれば2時間では足りないと感じるほどでした。
- ・ファシリテーターの南部先生がお話をバランスよく振ってくださったため、非常に意見が出やすかったように感じた。私は「ニューモダリティ」に参加したが、低分子のメドケムの方が多いためか、どちらかというとなら低分子で創薬を行いたい！という言葉をよく耳にした。コストや患者さんへの投薬を考慮すると、私も本意見に非常に納得するところであるが、日本の多くの製薬企業では未だ「ニューモダリティ創薬」をメインに進められているところは少数なのかな、といった印象を一方で受けた。日本初の合成化学を利用したニューモダリティの上市品がもう少し出始めれば、本セッションがもっと盛り上がっていくのだろうと想像した。
- ・専門分野ではない題目についての討論会に参加したが、様々なバックグラウンドの研究者と議論できて参考になった。AIを創薬に取り入れていく中で困難に感じていることを、他企業の方と共有できてよかった。
- ・アカデミア、製薬企業、両方において、創薬現場でご活躍の先生方の、日々のお話やお考えをお聞きでき、とても貴重な機会でした。
- ・企業間や疾患別の考え方の違いを知る機会になりとてもよかったです。研究業務では様々な考えを取り込みたいと思いつつ、研究職だと他社交流する機会が少なく感じるのでよかった。討論という形でテーマがあって、その元で話したのもとてもよかった。
- ・A～Jのグループ分類に関しては特に異論はありません。Bグループに参加しましたが、企業から5名、学生から3名からなっており、企業の5名も年齢のバランスが良かったと感じております。企業からの5名は若手からベテランのバランスが取れており、実際の創薬研究における課題や成功談などの話題に困ることが無かったように思います。学生方も疑問点を遠慮なく聞くことができる雰囲気、企業側の若手からベテランの幅広い意見を聞くことができる良い機会になったかと思いました。私は企業研究員ですが、他社の状況と自社の状況と比較することができ、視野を広げる良い機会になったと思いました。

## 4. 自由討論会 グループ分けについて

### 【ご意見】

・どのテーマも興味深い内容だと思いました。各グループも適切な人数で討論ができたと思います。

・若手と熟練の研究者がそれぞれバランスよく配分されていたため、多様な視点からの意見を聞くことができた。特に今回はなかなかお話しする機会のない経営者の方からもご意見が聞けたことで、普段の学会ではできない経験ができて非常に満足しています。

以上のことから私は今回のグループ分けについて特に不満はなく、非常に適切であったと感じました。

・若手社員が多く、悩みを共有でき、よかった。ファシリテーターの方や様々な経験をされている研究者の方からも、自分の悩みの解決の糸口となるようなお話も聞くことができて大変勉強になった。分野の全く違う方とお話する機会はほとんどないので、話を聞く機会は大変貴重だと感じた。大学院生の方がメンバーにいらっしゃったが、研究室と企業での研究についての違いや共通点など話すことができた。

・ほぼ全員がin silico初心者でしたので、共感する内容が多く議論できたと思います。また、逆にAI経験者の方のご意見もお伺いしてみたいとも思いました。

・私は分析業務に携わっており、自分の専門分野に関する討論グループがなかったので、どのグループに参加しようか迷った。業務内でAIやデジタルを活用して創薬を推進していきたいと考えていたためこのグループを選択したが、同様なバックグラウンド、思いで参加されている研究員の方が多かった。そのため、議論中、共感できることや参考になることが多く、参加してよかったと思った。

・とても満足しました。部屋構成は大学の先生が1人、製薬企業研究員が3人（うちベテランが2人、若手が1人）で、構成比がちょうどよいと思いました。また議論テーマについては、ファシリテーターの先生が「創薬ターゲットとテーマ発掘」に重点を置き進めてくださいました。4名とも方向性は違えどテーマの発掘あるいはテーマの売り込み・採用という観点に立って議論することを希望していたので、グループ分けは的確だったと感じました。

# 5. 自由討論会 討論について

## 【ご意見】

- ・アカデミア・企業の研究者がお互いの意見や知識を共有できる場になっていて、見識が広がった。  
様々なバックグラウンドの研究者がいるので、創薬に対する互いの意見をぶつけ合うこともあり、貴重な意見等を聞くことができた。
- ・座長の方が、全員に意見を振り、また様々な視点で議論できるようにファシリテータくださったので、よかったです（話題の偏りなく、適度に深く、広く議論できた）。メンバーの年齢層や所属（企業、大学）が多様になるよう配置されていたと感じました。とてもよかったです。
- ・創薬現場でご活躍の方の、日々のお話やお考えをお聞きできてとても貴重な機会でした。AIの活用については、実際に実行されている先生のお話もお聞きできて大変興味深かったです。
- ・企業からの5名は若手からベテランのバランスが取れており、実際の創薬研究における課題や成功談などの話題に困ることが無かったように思います。学生方も疑問点を遠慮なく聞くことができる雰囲気、企業側の若手からベテランの幅広い意見を聞くことができる良い機会になったかと思いました。  
私は企業研究員ですが、他社の状況と自社の状況と比較することができ、視野を広げる良い機会になったと思いました。
- ・似た悩みを共有出来て勉強になりました。  
ざっくりばらんに話をする形式だからこそ 正式な発表などでは得にくい、AIに関する“感覚”の部分のお話も伺えたような気がします。
- ・討論のテーマにとらわれない自由な雰囲気で見聞交換ができたのがよかった。  
悩んでいることを中村先生や中川先生に相談し、意見をいただくことができ、参加して本当に良かったと思った。また、大学院生で企業の様子を全くよく分かっていない身であったが、企業の様子を少し知ることができ、充実した時間だった。
- ・実り多き時間を過ごすことができました。  
創薬の流れに沿いながらアカデミア側から企業への要望提出、企業からアカデミアへのご提案という形で進み、相互に益の大きいディスカッションをすることができました。  
特に私は薬理研究員という背景から研究の流れをとらえていたので、化学合成の方の考え方、創薬の見方については理解が不十分でした。その点、同室した大学の先生は有機合成のスペシャリストという観点から様々なことを教えてくださいました。特に、創薬テーマのアピール時に薬理コンセプトまで十分に詰めるのが化学系ラボでは困難であることを仰っておられ、確かにその通りだと感じました。今後大学の先生にお話を伺う際には、先生側のラボが得意・苦手としておられることを把握し、先生方の背景とニーズを理解することが欠かせないと痛感いたしました。

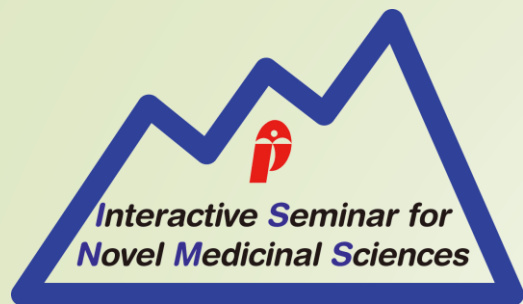


# 6. 自由討論会 今後のテーマについて

## 【ご意見】

- ・最先端のテーマも含んだ今回のようなテーマ設定が良いと思った。
- ・自由討論会は得るものが非常に多かったです。形式やテーマ分けに関しては異論ありません。可能であれば2つ以上のテーマに参加したいと思いました。
- ・ニューモダリティのテーマは今後も続けて欲しいと感じています。先述の通り、これからさらに盛り上がりを見せてくれる分野と思いますので、テーマの継続を続けて欲しいなと思いました。
- ・臨床や臨床開発に関するテーマ  
創薬にかかわるテーマ探索以外の部分の課題（事業性、開発、政策など）学際領域や自分の専門性以外とのかかわりについて
- ・是非AI, in silico関連のテーマでまた議論したいと思いました。また、より細分化されたテーマ設定(ビッグデータ、シミュレーション、AI活用等)でも議論してみたいと思いました。
- ・現在の枠組みで良いのではないかと思う。もしあればデータの取り扱い、DXの取り組み状況について知りたい。
- ・ホットなテーマから、従来からある課題など、幅広く設定されているので、今回のような設定の仕方問題ないと考えます。
- ・製薬企業のキャリアパスについて興味がある。他社の方々の事例等を伺ってみたい。
- ・「創薬ターゲットとテーマ発掘」については、若手社員は悩んでいる点も多いと感じるので、今後も入れてほしい。
- ・メディシナルケミストとしてこれからどう生きていくのかというようなキャリアの話を、年代別に区切ってお話するのも楽しそうだと思います。それぞれの会社で固定観念があると思うので、そこに気づく機会にできればと思いました。
- ・データや情報の処理とテーマ選択について議論できればと感じました。昨今は創薬に関する情報の量が飛躍的に増大し、氾濫する情報の中から魅力的なものを見出す力が重要視される時代になると思います。テーマをただ発掘するだけでなく、たくさんの発掘物の中からどれが魅力的なものとなりうるのかの審美眼の養い方などについて、実例等を交えながら議論できればと考えております。





ありがとうございました。